

ウガンダ(人)のイメージ？

- 赤道直下なのに1年中温暖でマイルドな気候・高い住みやすさ
(でも、マラリアには注意を)
- 国民は温和な性格で、それでいてホスピタリティにあふれ、話しかけやすい。ユーモアのセンスあり
- 若者であふれた活気みなぎる国 (中央年齢:15.8歳。人口の53%が18歳未満)
- 広く英語が通じる(アフリカで一番英語が話されている国)
…意思の疎通が楽
- 日本人に好かれる国(JICAの青年海外協力隊経験者を始め、ウガンダに戻ってきて何らかの形で働く人が少なくない。若い人がビジネスやNGO活動に従事)
- 東アフリカ地域の安定の要…先進的な難民の受入れ等において国際的に高い評価

ウガンダの強み

伸びる消費市場(ウガンダ:4500万人、東アフリカ共同体:2.9億人)

⇒BOPビジネス(特に「アフリカ健康構想」)

- ➡ 東アフリカ地域のフードバスケット(コメ、ジャガイモ、トウモロコシ、砂糖等)、商品作物(コーヒー豆、カカオ、茶)の主要生産国、バニラ、シアバターも
- ➡ 2025年に向けての石油の商業生産、原油パイプラインの敷設及び石油精製所の操業
- ➡ 豊富な再生エネルギー資源(水力発電、太陽光発電が中心)
- ➡ 優秀な若手ICT人材の存在・・・ICTエンジニアの育成と人材派遣の活用やオフショア開発の受注、ICTを利用したスタートアップ事業の発展が期待
- ➡ 持続可能な観光産業の振興(マウンテンゴリラ保護と観光の両立、ハイエンド志向等)

注意すべき点も...

- ▶ (いい意味でのビジネスの)ハングリーさに欠ける
- ▶ マネージャーに適した人材が不足気味
- ▶ 中には賄賂を要求する人も...

⇨ 現地でのビジネスパートナーをしっかりと選ぶ必要あり

ウガンダICTビジネス・スタディツアー

➡ 日時: 2023年1月29日～2月4日

(ウガンダ到着時から出発までの日程。)

JICAウガンダ
事務所主催

➡ 視察・面談内容(想定):

- ・現地ICT企業やテック系企業、ICT関連施設の視察、ネットワーキング
- ・現地政府(ICT省他)・経済団体(ICT関連)・ドナーとの意見交換
- ・最終裨益者やビジネスチャンス、ニーズの存在する現場の視察
- ・現地で操業する日本企業・海外企業との意見交換、JICAウガンダ事務所でのブリーフィング

ウガンダICTビジネス・スタディツアー

▶ 参加費、必要な費用について:

現地宿泊代、ツアーのアテンド、通訳、ツアー中の移動にかかる経費をJICAにて負担。参加企業には航空券等の費用のご負担を。

▶ 参加予定企業数: 5社程度

▶ 言語・通訳: 英語

▶ 問合せ先:

JICAウガンダ事務所

Email: ug_oso_rep@jica.go.jp

2022年12月14日 スタディツアー応募締め切り

2022年12月21日 参加企業発表

2023年1月上旬 スタディツアーに向けた手続き及び事前説明会の実施等

2023年1月29日～2月4日 スタディツアー実施

こんな
ことができ
る

- ・ウガンダのポテンシャル(特にICT産業事情)を、実際の現場を見て感じることができる
- ・現地パートナーとなりうる企業や、政府機関や経済団体との面談を通して、ネットワークを構築することができる
- ・現地企業(ICT関連企業等)やウガンダで操業している日本企業や海外企業からウガンダビジネスの生の声を聞くことができる
- ・JICA事務所のICT分野や民間連携担当とツアー中に意見交換しながら、中小企業・SDGsビジネス支援事業への応募イメージを掴むことができる

- ・アフリカ市場の可能性にご関心がある
- ・ウガンダのICT関連企業、政府機関、JICAとのネットワークを構築したい
- ・アフリカでICTを活用したDX化の促進するビジネスを行いたい
- ・アフリカ、ウガンダからICT人材をはじめ優秀な人材を採用したい
- ・アフリカ、ウガンダのICT産業やICT人材育成に興味がある
- ・ICT人材、企業を活用したオフショア開発を計画している
- ・中小企業・SDGsビジネス支援事業への応募を考えている

こんな方
にお勧め